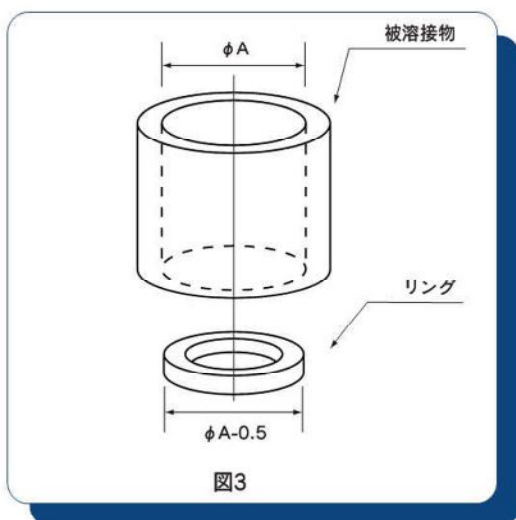
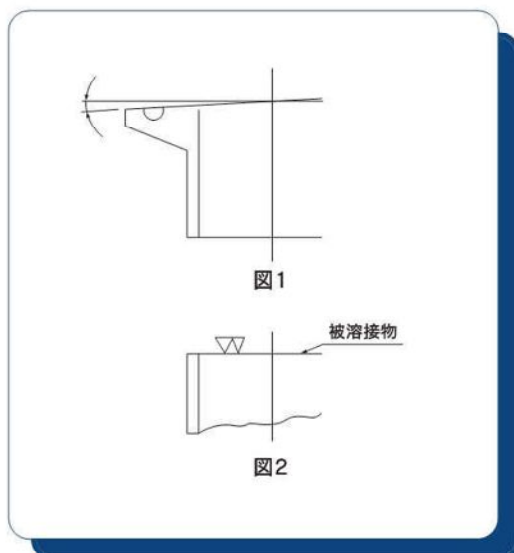


ヘルールは溶接の仕方によって、ヒズミが発生し、パッキン面が図1のように反り曲り、洩れの原因になるばかりでなくインロー差し込み部の嵌合もできなくなることもありますので、特に下記の点に注意して溶接してください。

## 1. 溶接時の注意事項

- 1) 被溶接部(相手側)の溶接面を面一に仕上げる(図2参照)
- 2) 被溶接部をできるだけ真円にする。
- 3) 溶接電流は低電流とする。
- 4) 内周から溶接を始める。
- 5) 外周の溶接を行うときは、ヒズミ防止用のヘルールを取付けてクランプを締めてから行う。
- 6) ヘルールと被溶接部との間にできるだけ多く仮付溶接を行ってから溶接を行う。
- 7) ヘルールの近い所に他のものを溶接する場合、溶接歪を修正した後ヘルールの溶接を行う。



## 2. ヒズミ防止用治具

- 1) ヘルール又は被溶接物の内面に治具(リング)を挿入し、真円を保つ。(図3参照)
- 2) ヘルール又は被溶接物内面に治具(ターンバックル等)で真円を保つ。(図4参照)

## 3. 溶接後のヒズミ取り

- 1) 溶接箇所内面に当て板をして、外面を叩いて伸ばす。
- 2) 溶接箇所を加熱する。
- 3) 突起した部分は、サンダー等で軽く擦る。

